

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名 佐久市立 田口保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じた保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<p>○入園しおりの1ページ目に、佐久市全体の保育目標3つと、田口保育園の目標として4つ、7つの方針が明記され、各保育室にも掲示されていました。</p> <p>○毎週職員会議が開かれ、特別なケース、健康状態、行事計画〔地域との交流〕など、保育課程を念頭においた会議が開かれていました。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>○保育室は、南向きで日当たりも良く、保育室から園庭が広がり、直ぐに出て遊べるような環境が確認できました。各部屋には、エアコンが設置され、夏、冬の季節に配慮されていました。</p> <p>○木材を中心に建設された廊下の丁度中間あたりには、壁際に設置された本棚があり、沢山の絵本が並び、直ぐ前方に椅子が置かれ、いつでも絵本を楽しめる空間になっていました。</p> <p>○トイレは、3か所に設置され、年少・年中と年長児と分かれて、上履きからトイレ用のサンダルに履き替えて使用され、清潔で明るい環境が確認できました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 		<p>○年少・年中・年長児と上がるごとに、保育室の雰囲気は変わり、特に年中児室においては、ハサミを使用して、画用紙を切っている園児たちは真剣で、保育士はその様子を静かに見守っている様子が確認できました。</p> <p>○各クラスから、園児の元気な声が響き渡り、保育士の大きな声掛けのない中で子ども達の気持ちに沿った保育の運営に心掛けている様子が伺えました。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 		<p>○昼食後のお昼寝前の様子は、園児それぞれが機敏に動き、歯ブラシを準備して、椅子に再び座り、その日の当番さんが前に出て号令をかけていました。その号令で一斉にクラス全員で、歯磨きを始めていました。</p> <p>○園児一人一人が個性豊かで、挨拶は元気に明るく、しっかり行なって頂き、特に年少児は、人懐こさも感じられました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○各保育室から出た所の廊下の丁度中間あたりに、少し広いスペースを利用して、壁際に沿って絵本がぎっしり詰まった本棚が並び、その前には椅子が設置されていました。</p> <p>○日本に2つしかない五稜郭の遺跡隣りに隣接した田口保育園では、裏にある五稜郭公園まで、毎朝マラソンをしていました。車も通らないので、鬼ごっこのような遊びの中からマラソンを行なうことで、体力をつけていました。年長になると、散歩が出来る距離で、体力がついている事を実感していました。</p> <p>○「ごりょう読み聞かせ」のボランティアは、年間6回訪れ各クラスに入って読み聞かせを行ったり、地域の民生委員が、10名ほど訪れて保育士と交流し、クラスの様子や地域の情報を交わして連携を深めていました。</p> <p>○地域の方が定期的に手作りの品物を届けてくれるとの事で、保育園入口には、手作り作品が並べられていました。職員室のテーブルにも地域の方から頂いた切り花も、飾られていました。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○10名の園児を3名の保育士でみており、特にテラスがコンクリートなので、園庭に出るまで怪我のないように、保育士はしっかり把握されていました。</p> <p>○歩き始めのお子さんなので、発達の差も激しく、個々の対応が必要で職員間の連携を図って、それぞれの対応に奮闘していました。</p> <p>○お腹が空くのも早いので、昼食は早めに摂っていました。</p> <p>○2歳に向けて、おむつを外す時期も、それぞれの時期を見極めて、必要な保育を行っていました。</p> <p>○保育園での様子は、連絡帳で伝達して、自宅に紙おむつを持って帰って頂く事で、健康状態の把握にも繋げていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼 点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>○担当保育士は、一人一人のペースを大切に、「一緒にできたね」と徐々に団体活動が出来るように関わっていました。</p> <p>○クラスで、プランターにミニトマトを育てて、日々の水やりで成長していく様子を観察して、収穫を楽しんでいました。</p> <p>○近くにあるお年寄りのグループホーム「愛の郷」と定期的に交流を重ねて、7月の七夕を終えると保育園で七夕の飾りを空に届けていました。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○年中児は、ハサミを上手にを使って、画用紙に書いた絵の周りを真剣に切り落としていました。食事の時間も、保育士の声掛けは少なく、自主的に行動して準備を整えて、食事の席に着席している様子が確認できました。</p> <p>○年中・年長児の園庭に出る先には、稲を栽培している「バケツ田んぼ」が置かれ、稲の成長を楽しんでいる様子がみられました。</p> <p>○年長児を中心に、近隣にあるお年寄りのグループホーム「愛の郷」を訪問して、歌や演奏を披露したり、肩たたきや握手をして触れ合っていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>○障がいのお持ちのお子さんには、加配保育士が付いて、しっかり見守っていました。園児同志も分け隔てなく、自然に関わってクラスの一人として一緒に活動していました。</p> <p>○「はぐくみ相談」を定期的に行ない、希望される保護者と園長先生、クラス担任と、保健師で面談を行っていました。家族で抱えている悩みや、子育ての適切な情報を伝えて、必要に応じては、専門機関や医師の紹介を行っていました。</p> <p>○加配保育士は、「加配保育士研修会」で専門的な研修を受けて、パニックになってしまった時は、外に出てクールダウン出来るように場所をかえて対応していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	○延長保育は、夕方5時までは、以上児クラスと、未満児クラスに分かれて保育士2名ずつで保育にあたっています。5時以降は、合同で7時まで保育にあたり、職員間の引継ぎもしっかり行なわれていました。 ○降園時には、保護者一人一人に声を掛けて、日中の様子を伝達していました。 ○延長保育用のおやつは、お菓子と麦茶のパックを準備して対応していました。 ○年齢の異なる子どもと一緒に保育になるので、未満児に付き添いながら、以上児の動きに配慮し、見守っていました。また、10月の遠足で「異年齢のかかわりを通し、思いやりの気持ちを大切にする。」と目標を掲げるなど、日頃から意識的な取り組みも行なわれていました。
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	○田口小学校1年生が来園して、遊戯室で歌や音楽を披露して頂き、年長児も歌やカスタネットの演奏を披露するなどの交流が図られていました。 ○保育園のすぐ隣に面している小学校のプールに出かけて、小学校プールを体験したり、1年生と交流を図り、小学校入学後も安心して利用できるように、プールに慣れる機会が設けられていました。 ○「幼保小連絡会」が設けられ、就学前の情報交換も密に行なわれ、小学校との連携が図られていました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	■ 71	子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。	<p>○「入園のしおり」に、国で定められた「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づいた田口保育園の感染症に対するきまりが明記され、各家庭にわかりやすい表にまとめられ、周知が図られていました。</p> <p>○登園後の怪我や体調悪化の際は、園長に報告して、家族へ連絡が必要な場合等の見極めを検討し、その後の対応も慎重に行なわれていました。</p> <p>○入園直後に、家庭訪問を行なう事で、個々のお子さんの様子や健康状態をお伺いし、家庭環境の把握にも努めていました。</p> <p>○特に乳幼児保育においては、家庭からの日々の情報をしっかり聞き取り、SIDSに関しての配慮として、睡眠時の様子は常に把握されて呼吸の確認を行なっていました。</p> <p>○感染症やSIDSの指導に関しては、市からの通達や研修等で、園長をはじめ保育士全員で周知されていました。</p>
					■ 72	子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。	
					■ 73	子どもの保健に関する計画を作成している。	
					■ 74	一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。	
					■ 75	既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。	
					■ 76	保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。	
					■ 77	職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。	
					■ 78	保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。	
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	■ 79	健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。	<p>○発育測定は、毎月20日前後に行ない、健康状態の把握を行なっていました。</p> <p>○内科・歯科は年2回、眼科検診は年1回実施され、その後治療が必要な園児については、保護者に検診票を渡して治療を促し、治療が済んだ返答も頂くようになっていました。</p>
					■ 80	健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。	
					■ 81	家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。	
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	■ 82	アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	<p>○入園時の際に調査を行なって、アレルギー疾患の子どもへの対応は、マニュアル化されていました。</p> <p>○田口保育園では、現在果物と乳製品アレルギーを抱えている園児がおり、給食担当の先生で把握して調理されていました。その日のメニューに関係する場合は、朝会で確認して担任保育士をはじめ、全職員で周知が図られていました。</p> <p>○市の給食部会では、子どものための食事作りやアレルギー疾患、心の栄養などの題材で勉強会が開かれていました。</p>
					■ 83	慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	
					■ 84	保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。	
					■ 85	食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。	
					■ 86	職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。	
					■ 87	他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 		<p>○ミニトマトをプランターで育てたり、バケツ田んぼで収穫した米で、小さなおにぎりにして味わうなど、楽しんで経験できて、食の関心が深まるような工夫がされていました。</p> <p>○食器は、全てかわいい動物の絵柄になっており、盛り付け前と、食べ終わった時に楽しめる工夫がされていました。</p> <p>○担任保育士は、園児一人一人の苦手な食材等を把握し、盛り付けの際に半量にしたり、苦手な食材をさけて少なく盛りつけるなど配慮されていました。</p> <p>○お替わりを求める園児の希望に沿いながらも、平等にいきわたるように配慮されている様子が見られました。</p> <p>○昼食のメニューは、降園時に保護者に見て頂けるように提示されていました。</p>
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 		<p>○佐久市で献立表は一括して作成され、旬な野菜で季節感の感じられるメニューや、おやつでは、マーブルケーキ、もちもち南瓜ケーキや、クレープなど園児の楽しめるものになっていました。</p> <p>○主任調理師は、毎月、市の部会に参加され、責任をもって業務にあたり、衛生管理もマニュアルに沿って行われていました。</p> <p>○献立表には、栄養素のエネルギーの説明や、簡単なクイズ問題が記載され、家族でも楽しめる表示になっており、毎月、各家庭に配布されていました。</p> <p>○「保育園職員の心構え」の綴りで、衛生管理の具体的な細目が明記され、マニュアル整備のもと、衛生面に配慮されていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	■ 104	連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。	<p>○家庭との連絡は、連絡帳、ほいくえんだよりで伝達して、行事などの詳しい伝達事項などは、その前日などに各クラスの玄関先に下げられたホワイトボードに、記載するように工夫されていました。</p> <p>○連絡ノートに記載された意見や要望は、園長(福)先生に伝えて、解決に向けた対応がされていました。必要に応じて、毎週実施されている職員会議に周知を図り、検討する機会も設けていました。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	■ 105	保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。	
					■ 106	様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。	
					■ 107	家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	
					■ 108	日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。	<p>○日々の関りで保護者との信頼関係が築かれおり、秋の運動会では、田口地区の保護者の団結力で準備から応援を受け、保育園からも「運動会へようこそ」のキャッチフレーズで、ポスターを各家庭に配って近所に貼るなど、地域ぐるみの運動会になっていました。</p> <p>○保護者からの相談は、園長(副)が把握した上で、全職員が共有できるように、毎週の職員会で検討され、その後の支援も確認して、適切な対応に繋がられるような取り組みを行っていました。</p>
					■ 109	保護者等からの相談に応じる体制がある。	
					■ 110	保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。	
					■ 111	保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。	
					■ 112	相談内容を適切に記録している。	
					■ 113	相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着点	コメント
			<p>② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	<p>a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性がある職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 ■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○虐待事例は、園内ではないので他園の事例をあげて、職員会で話し合っていました。特に普段からの言葉の使い方に気を付けて、保育時の対応を振り返っていました。</p> <p>○長野県市町村児童虐待対応マニュアルに沿って、佐久市公立保育園全体で、家庭での養育状況を把握するために、子どものからだの状態や心身の状態の把握に努めていました。</p> <p>○佐久市では、「はぐくみ相談」や民生委員との交流に力を入れ、日頃から意識的に家庭との情報をつかむように心掛けている様子や努力が伺えました。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	<p>① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	<p>a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 ■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○未満児保育士達は、職員間で各園児の状況を平等に得られるように、保育士のローテーションを見直して、園長(副)を含めた会議を毎週開いて、前向きな検討がされていました。</p> <p>○園長(副)を中心に、地域との交流を大切にされ信頼関係を深めて、専門職や民生委員の情報や助言を聞き入れて、保育士としての資質向上に前向きに取り組んでいました。</p>